

あいさいっ子
応援ナビ

あいさいさん

スケジュール管理

予防接種のスケジュールを
自動で作成！
プッシュ通知も届きます。

子育て情報満載

子育て教室・講座や
お子さんの健診の情報を
入手できる！

すぐ見つかる

市内の保育園・幼稚園・
児童館・子育て支援センターの
場所や情報が見つかる！

成長が見られる

お子さんの身長・体重などの
成長の記録をしたり、
子育て日記を作れる！



アプリダウンロードはこちらから！！
無料でカンタン登録しよう♪

問 子育て支援課 ☎(55)7118



あいさい見聞録

その53 信長の？勝幡城



「信長の？勝幡城」を案内する時にふと迷いました。勝幡駅前立つのは、織田信秀と土田御前に抱かれた赤ちゃんの銅像です。

今から450年前、戦国時代の尾張国は、斯波氏が守護大名で、守護代の織田氏により統治されていました。織田信定（信長の祖父）は、主家重臣として守護代・織田大和守家清（清須）に仕えた庶流・清須三奉行の弾正忠と称した家柄で、大永年間（1521～8年）、勝幡に城を築きました。その頃の勝幡は尾張国府（国府宮）などと津島港とをつなぐ交通の要衝でした。

信定の子・信秀（1511～1552年）は、豊かな濃尾平野、また、津島港の商業を重視して国力を強め、尾張全域へ、さらに、三河・美濃へも進出していき

ます。ただ、信秀は清須三奉行の地位のままであり、勝幡の城も、城というより地方豪族の館で、京都の公家などを接待したと考えられます。

1534（天文3）年、勝幡で嫡男の信長が出生します。

直後、父・信秀は居城を古渡城（名古屋市中区）に移し、また、菩提寺として万松寺（名古屋市中区）を創建します。万松寺には、勝幡駅前の銅像モデルになった信秀の木像が祀られています。信秀は、熱田港を押さえ、現代の名古屋の礎を造り勢力を拡大していきますが、志半ばで病死し、信長が継ぐことになりました。

つまり、勝幡は織田信秀の城であり、私たちは織田信長の父・信秀の功績を見直すべきかもしれません。



勝幡駅前の銅像

問 市観光協会 ☎(55)9993